

2022（令和4）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期

国語総合（近代以降）（60分）

注意事項

1. 監督者の指示があるまで問題を開かないでください。
2. 問題冊子は16ページあります。ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどに気づいた場合は、無言で手を高く挙げて監督者に知らせてください。
3. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に氏名、受験番号をそれぞれ正しく記入してください。
4. 解答は、次の（例）を参考にし、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。

（例）解答番号1に対して、⑤と解答する場合

解答番号	解答記入欄
1	① ② ③ ④ ⑤

5. 解答用紙に正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 訂正箇所は、消しゴムできれいに消してください。
7. 解答欄には、関係のない符号や文字あるいはメモなどを記入しないでください。
8. 解答用紙を折ったり汚したりしないでください。
9. 問題冊子の余白部分は、適宜利用してもかまいません。
10. 声を出して問題を読んではいけません。
11. 不正行為について
 - ①不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ②不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が直接注意します。
 - ③不正行為を行った場合は、全ての科目が失格となります。
12. 気分が悪くなった場合は、無言で手を挙げて監督者に知らせてください。
13. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号は

1

39)

□ 次の文章を読んで、後の問い(問1〜7)に答えよ。解答番号は □ 1 □ □ 12 □。

対話という言葉だけのやり取りという印象を持つかもしれないが、実際には私たちは □ A □ で対話するより以前に、 □ B □ そのものが放つ態度や皮膚感覚で伝わる □ C □ 非言語の対話から始まっている。実際にはまず非言語で何らかの情報のやり取りをしていて、そのあとに言葉を使つて補っている。

例えば、「あの人は思ってもいないことをよく言うよね。顔に書いてあったよ」という会話が成立するのは、そういうことだ。顔の表情を無意識に読み取りながら、同時に言葉での対話も行っている。そして、最終的に信頼しんらいしているのは「あたま」由来の言葉ではなく、「からだ」が受け取った無意識のサインのようなものなのだ。

つまり、私たちは、「あたま」由来の言語以上に、「からだ」全体で □ E □ 膨大な情報をやり取りしていて、「からだ」で直接感じたことのほうをむしろ大切にしているようだ。それは顔の表情や目つき、仕草や醸し出す雰囲気から始まり、相手から受けるあらゆる言語化されない非言語の情報を知らず知らず受け取っているのである。

そう考えると、嘘うそが入り交じりやすい「あたま」由来の言葉を信じるよりも、「からだ」でやり取りされた非言語のコミュニケーションを信頼し、より具体的な情報をやり取りするために、言語を □ I □ 介した対話を発達させてきたとも言えるだろう。ただ、そうした「からだ」の深い場所で行われる □ B □ 同士での対話と、「あたま」の浅い場所で行われる □ A □ の間における対話とがまったく違う意味を表現していることもあり(注) エリック・バーンの「交流分析」では、こうした交流を「裏面的交流」と呼ぶ)、「あたま」と「からだ」の指し示す情報が真逆を向いているために表と裏(言語と非言語)とで交流がねじれてしまうことはたびたび起こる。心理学では「Double bind」(ダブルバインド)と呼ばれることもある(文化人類学者グレゴリー・ベイトソンによる)。

つまり、本当の思いとして心が伝えようとしていることと、実際に言葉として出てきた言語表現とが違う方向を指している、その矛盾したメッセージを表(「あたま」の言語)と裏(「からだ」の非言語)とで同時に受け取ってしまい、混乱してしまうのだ。嫌なのに好きだと言ったり、好きなのに嫌いだと言ってしまった経験は誰にでもあるのではないだろうか。そうした時、話し手も聞き手も、お互いの「あたま」も「からだ」も「こころ」も、混乱し □ a □ 困惑し

てしまうのだ。

私たちの心は、D そうした矛盾に満ちた複雑なコミュニケーションを知らず知らずのうちに日々こなしており、疲れてしまっているという現実がある。そうした会話を続けるうち、お互いが本当に伝えたいことがわからなくなってしまうのだ。

心では言ったほうがいいとわかっているのだが、実際には正直に言えない場合も、たびたび経験したことがあるだろう。嫌われるのではないか、怒られるのではないか、馬鹿にされるのではないか、軽蔑されるのではないか、場違いなのではないか、と怯えながら。そうしたことに迷い悩んでいると、そもそもその対話自体の意味や目的もわからなくなってくる。相手の挙動、表情、雰囲気などを感じ取っては瞬時に判断し、対話を円滑に、(ウ) 無難に終わらせることを最優先させてしまうことで、差し障りのない言葉を選んで対話は終わってしまう。

対話の場合は、そこに関わる人たちによってつくられるものだ。だからこそ、様々な条件が影響し合って、時には一方的な支配のもとで対話が行われることもある。聞き手の心が閉じていて心が動いていない場や、そもそも真の対話を求めている場など、いろいろな場があるだろう。そうした場の状況すらも、私たちは無意識に読み取り、場に合わせて行動してしまう。そうになると、話される内容自体も、お互いのあり方や場次第で、どうにでも変化し、矛盾に満ちたものになってしまうだろう。

E

ドアが開かないと、部屋に入

れないように、頭が感情であふれていると、閉ざされた心に言葉は届かない。そういう時でも相手の言動や感情に巻き込まれず、自分の言葉に責任を持って言葉を発すればいい。一音一音が粒子として波動として、対話の空間全体へ働きかけていると思えばいい。

「からだ」や「こころ」は、自分の思いを100%素直に表現したい、伝えたいと思っているにもかかわらず、「あたま」の合理的な判断が対話が無難に終わらせることを優先させて言葉を選ぶことがある。思いをありのまま伝えようと「こころ」が準備しているのと同時に、相手から嫌われないように、場の(エ) 均衡を乱さないようにと「あたま」が想定して準備している。こうして、私たちは「こころ」の論理と「あたま」の論理の狭間で、両者のバランスを常に取っているのだ。

最終的に「あたま」を介して選ばれた言葉には、強弱や高低といった抑揚やリズム、イントネーションなどあらゆる要素が加味されて、相手に情報が伝えられる。それらはすべて、ほぼ無意識下で行われる瞬間的な行為の連続だ。そう考えてみると、ただ対話をしているだけのようでも、場合によっては極度に「気疲れ」したと感じることも納得できるだろう。「こころ」が本来は必要ない様々な働きを大量に行って(オ) 消耗してしまっている場合も多いのだ。こうした対話術は、どこでも学んだことがないため、私たちは見よう見まねで、周囲でやり取りされ

ている対話をベースにして学んでいるのが実情だ。

そう考えると、対話の場をつくる要素のひとつでもある自分自身が、まず開かれた心で存在することがより良い対話の場へと貢献できる第一歩になる。そういう開かれた存在のあり方からでないとい、**F 真の創造的な対話**は始まらない。

(稲葉俊郎『いのちは のちの いのちへ』より。本文中に一部改変したところがある。)

(注) エリック・バーン——カナダ出身の精神科医(一九一〇～一九七〇年)。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～④のう

ちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は **1** ～ **5**。

- | | | | | | |
|-----|----------|---------|--------|---------|---------|
| (ア) | 1 | ① ちょうだい | ② ぼうだい | ③ ばくだい | ④ こだい |
| (イ) | 2 | ① よし | ② すけ | ③ かい | ④ なお |
| (ウ) | 3 | ① なんなく | ② むなん | ③ ぶなん | ④ ぶじ |
| (エ) | 4 | ① きんこう | ② きんとう | ③ きんいつ | ④ きんてい |
| (オ) | 5 | ① しょうめつ | ② しょうひ | ③ しょうしつ | ④ しょうもう |

問2 傍線部(a)「困惑」と似た意味を表す慣用句として最も適当なものを、次の①～④の

うちから一つ選べ。解答番号は **6**。

- ① 薄氷を踏む ② 途方に暮れる ③ 片腹痛い ④ 呆気にとられるあつけ

問3 空欄 A (二か所)・B (二か所)に入る語句として最も適当なものを、次の各

群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は **7** ・ **8**。

- | | | | | | |
|---|----------|---------|---------|------|------|
| A | 7 | ① 「あたま」 | ② 「こころ」 | ③ 情報 | ④ 言語 |
| B | 8 | ① 「からだ」 | ② 「こころ」 | ③ 存在 | ④ 情報 |

問4 傍線部C「非言語の対話」とあるが、この内容が含まれるコミュニケーションの具体

例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は9。

- ① 横断歩道で信号待ちをしていたときに、横断歩道の向こうの人の群れの中に友人を見つけたので大きく手を振って自分の存在をアピールしたところ、友人がそれに気づいてくれて、満面の笑みで大きく手を振り返してくれた。
- ② レポート提出の締め切りをうっかり忘れて先生に呼び出されてしまい、すっかり意気消沈して職員室に向いたところ、先生が私を見て「元氣ないな」と笑顔で言ってくださったので、少しホッとして「すみません」と言って頭を下げた。
- ③ 母にお小遣いの前借りを頼もうと、黙って顔の前で手を合わせて頭を下げるお願いのポーズをして、その後指で輪を作ってお金のことだと伝えると、母は笑って、「言いたいことはわかったけどね……」と言って、体の前で腕を交差させた。
- ④ 新聞部の取材で、外国の人に英語でインタビューしたときに、自分の語学力で伝えたいことが相手に正しく伝わるかどうか不安を感じつつも必死で対話を試みたが、相手はそれを見て首をかしげていた。

問5 傍線部D「そうした矛盾に満ちた複雑なコミュニケーション」とあるが、それはどう

いうコミュニケーションか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は10。

- ① 向かい合って言葉を交わすことが「対話」であるにもかかわらず、「あたま」由来の言語以上に、顔の表情や目つき、仕草や雰囲気など、相手から受けるあらゆる言語化されない非言語の情報を大切に行っているコミュニケーション。
- ② 「からだ」の深い場所で行われる対話と、「あたま」の浅い場所で行われる対話とがまったく違う意味を表現しているために、交流がねじれて、互いに本当に伝えたいことがわからなくなってしまうコミュニケーション。
- ③ 本当の思いとして心が伝えようとしていることと言葉として出てきた言語表現とが違う方向を指しているのに、それに気づかないまま全く異なる二つのメッセージを同時に受け取ってしまい、話し手も聞き手も混乱してしまうコミュニケーション。
- ④ 相手との関係が悪くなることを恐れるあまり、そもそもの対話自体の目的もわからなくなり、対話が無難に終わらせることを最優先させて、差し障りのない言葉を選んで意味もなく終わってしまうコミュニケーション。

問6 空欄 E には、次の六文が入る。その入る順として最も適当なものを、後

の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

ア 相手が感情的になつてゐる時はよくあることだ。

イ だからこそ、自分の思いが伝わるように、適切な言葉選びをすることが大事だ。

ウ 自分が発した言葉を、相手がどう受け取るか。

エ そして、相手がどう受け取るかというのは相手の問題である。

オ もちろん、場合によっては自分の意図が相手に適切に伝わらないこともあるだろう。

カ 自分が発する言葉は自分の問題である。

- ① ア ↓ イ ↓ ウ ↓ オ ↓ カ ↓ エ
- ② ア ↓ イ ↓ ウ ↓ カ ↓ エ ↓ オ
- ③ ウ ↓ カ ↓ エ ↓ イ ↓ オ ↓ ア
- ④ カ ↓ エ ↓ ウ ↓ ア ↓ オ ↓ イ

問7 傍線部 F 「真の創造的な対話」とあるが、「真の創造的な対話」をするためにはどうす

ればよいと筆者は述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

① 対話の場にいる自分自身が、相手の言葉を受け取るための開かれた心を持ちつつ、自分の言葉に責任を持って、相手の言動や感情に巻き込まれることなく、一言一言を大切に伝えるようにする。

② 対話の場をつくる要素のひとつでもある自分自身が、まず相手や場に対して開かれた心で存在することで、「こころ」が喜び、勇気づけられ、「いのち」が呼び覚まされるようにする。

③ 対話に対する自分の態度を変えて、自分の態度の変化が相手のあり方にも影響を与えることによって、相互に何の偏見も遠慮もなく、活発に思ったままを言い合えるようにする。

④ 対話者が相互に真の対話を求めて心を開くように努めることによって、非言語による対話を不要にし、「気疲れ」をすることもなく、「こころ」を介した言葉を交わし合えるようにする。

二 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。解答番号は 13 ～ 24。

（注1）『大言海』によれば、「はかばかし」や「はかどる」の「はか」は、もともと田んぼを区画に分かつときに使われた言葉だそうだ。数区に分かたれた田を、かつては「一はか、二はか」などと数えたのだという。それがやがて、仕事の進みやはかどりを意味する言葉になった。

頼りなく移ろい続ける世界に、単位という基準を打ち立て、それと比較して物事をはかる。こうして把握される「比 (Ratio)」を通して世界を認識できるという考えは、数学という営みの源流にある。はかられた量は、対応する表象を操作することで「計算」できるようになる。何千年もかけて数学は、この「計算」という営みに秘められた可能性を掘り起こしてきたのである。あらゆる計算を (ア) スイコウでできる機械 (＝コンピュータ) が社会の隅々にまで浸透していくと、すべてを「はか (測、計、量)」ることで、さらなる便利と効率を追求しようという動きも出てくる。A **そんな時代**に、はかばかしくあること、はかがゆくことは、そうでないことに比べて正義であると、まるで当然のことのように信じられている。

子どもの住む世界に、はかどりをはかるための基準はない。物事に単位の物差しを押し当て、固定された尺度と比べてはかるという発想がない。はかのない世界を、はかのないままに、彼らはすべての瞬間を **渾身** で生き抜く。

クリスマスにサンタにもらった大きなダンプカーのおもちゃで、河原の石を集めて運ぶのが、息子はいまは楽しくて仕方ない。寒くて、他に遊んでいる子などいない河原で、彼は夢中になって石を運ぶ。「大きな石を見つけようよ！」と、こちらを振り返っては、(イ) **ハズ**んだ声で呼びかけてくる。

雨が降り始める。僕は、彼がこのままでは風邪を引くのではないかと心配になる。息子はさっきまでと変わらず、淡々と石を運び続ける。僕の頭はいつも「いま」を、過去や未来との対比のなかで「はかる」ことで忙しいが、それに比べて息子は、はかない「いま」に、全身で没入している。無数に転がる石たちのなかから「これ」という石を選び出す彼の仕草を見ると、「思いやる」とか「思い入る」というのは、こういうことを言うのかもしれないと思われてくる。

ちょうど一年前の正月は、東京の病院にいたのだった。息子が **大晦日** から入院することになり、何気ない平穏な毎日がいかにほかないものかを実感することになった。そのほかなさのなかにも、目を開きさえすれば、明るい光が差し込んでいくということもまた、このときに学んだのだった。「物の見えたるひかり、いまだ心にきえざる **中** にいひとむべし」と (a) **芭蕉** は言った。いかなる「おもんばかり」もなく、ただ現在を渾身で生きる子どもの世界は、ほかない瞬間の「ひかり」に包まれている。

(注2) 唐木順三は著書『無常』のなかで、王朝期の宮廷という停滞社会に生まれた「はかなし」という情緒が、「兵」たちの実存体験に根ざした「無常」の実感へと転じ、それがやがて、(注3) 道元において、冷徹な事実としての無常観へと変容していく過程をつぶさに描き出している。「はかなし」と題されたこの本の最初の章に、次の一節がある。

無常の無、ニヒリズムのニヒルにおいて不安と無根拠を感じる時、ひとは有常、恒常なるものを求める。b 的なもの、権威を探す。そしてその c 的権威に頼って自己の安定化を計る。さまざまなるイ(ウ) ショウがここに出現するわけだが、ひとはそれをさまざまなるものの一つとは考えたくないという傾きをもつ。即ち特殊なるものが d 化される。

はかばかしくあること、はかどること、そしてすべてが思い通りに進捗していくことが、現代においては、e の価値であるかのようにシン(エ) ポウされている。そこでは、世界に「はか」という尺度を押し当て、物事を単位と比べて f 的にはかるといふ姿勢自体の特殊性があらためて顧みられることはない。

はかのない世界に、人が拵えた「はか」を押し当てていく。そうすることではじめて浮かび上がってくる世界がある。だが、はかり、はかどることばかりに躍起になって、はかない瞬間の光をつかむことができなくなつては本末テン(オ) トウである。

雨が強くなるのではないか。風邪を引くのではないか。仕事が思うように進まないのではないか。そんな心配ばかりして、お父さんはいったい何を探しているの？ いま目の前には、こんなに大きな石があるのに。

はかばかしく、はかどることだけではつかむことのできない、はかない瞬間の贈り物がある。そのたちまちに消えゆく光を、「きえざる中にいひとむ」ためには、慎重にはかられた言葉の世界を丁寧^{ていねい}に育んでいく必要がある。

この世のはかなさに開き直るのでもなく、はかばかしさとはかどりばかりにとらわれるのでもなく、はかないこの世界を、思いやり、思い入り、そこにはからずも到来してくる B という贈り物を、僕は自分自身の言葉でつかみたい。

はかばかしくなく、はかどらない時間の底に、現在という瞬間のかがやきがある。

そのことを教えてくれた存在の寝息が、いま僕の背後から聞こえる。

(森田真生『数学の贈り物』より。本文中に一部改変したところがある。)

(注)

- 1 『大言海』——国語辞典。
- 2 唐木順三——哲学者、評論家（一九〇四～一九八〇年）。
- 3 道元——鎌倉時代の僧（一二〇〇～一二五三年）。

問1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それ

ぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

(ア) スイコウ

- ① ジュンスイな気持ちをもつ
- ② クーデターはミスイに終わったらしい
- ③ 最近十年の人口のスイイを調べる
- ④ この淡い夕焼けをスイサイガで描きたい

(イ) ハズんだ

- ① 母とレンダンキョクに挑戦する
- ② カンダンの差が大きい地域
- ③ 柔道のシヨウダン試験
- ④ 必ず行くとタンゲンする

(ウ) イシヨウ

- ① 細かいことにこだわらないシヨウブン
- ② ついシヨウドウ的に行動してしまった
- ③ 平安絵巻のようなシヨウゾクを着る
- ④ 念願かなってシシヨウに弟子入りできた

(エ) シンボウ

- ① 食塩のホウワ水溶液を作る実験
- ② 神社に絵馬をホウノウする
- ③ 祖母の趣味はホウガクの鑑賞だ
- ④ フホウ侵入対策で防犯カメラを設置する

(オ) テントウ

- ① トウシンダイのポスターに驚く
- ② 現実からトウヒしようとする
- ③ トウリツ前転ができるようになった
- ④ ネットウ消毒をすれば安心だ

問2

傍線部（a）「芭蕉」は江戸時代に俳諧はいかいを確立した人物だが、明治時代に俳句革新運動をはじめた人物と、その人物が詠んだ俳句として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

18

・ 19

・明治時代の俳人

18

① 高浜虚子

② 中村草田男

③ 正岡子規

④ 河東碧梧桐かわひがしへきごとう

・その人物の詠んだ俳句

19

① 流れ行く大根の葉の早さかな

桐一葉きりひと日当りあたながら落ちにけり

② 降る雪や明治は遠くなりけり

万緑の中や吾子あこの齒生え初むる

③ いくたびも雪の深さを尋ねけり

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

④ 赤い椿つばき白い椿と落ちにけり

曳ひかれる牛が辻つじですつと見廻みまわした秋空だ

問3

空欄

b

f

に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

20

① b 絶対

c 絶対

e 絶対

f 相対

② b 絶対

c 絶対

e 絶対

f 絶対

③ b 相対

c 相対

e 相対

f 相対

④ b 相対

c 相対

d 相対

f 絶対

問4 傍線部A「そんな時代」とあるが、筆者は現代をどのような時代であるかとらえているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

① 世の中のあらゆる事象を数値化し、望ましい方向へ順調に進むことが正しいと信じ、効率の悪いことや予測不能なものを可能な限り排除して、利便性の向上と合理性を追い求める時代。

② コンピュータが社会の隅々にまで浸透したことで、あらゆることが計算に基づいて管理される世の中になり、効率性が重視される一方で、その弊害として人間性が失われている時代。

③ 数学的な考えをあらゆる営みにおしひろげてゆき、本来はかることのできない物事に対しても単位という基準を当てはめて、何事も基準に基づいて画一的に判断しようとする時代。

④ 単位という基準を打ち立てて、固定された尺度を用いてあらゆる物事をはかるようになったため、「頼りなく移ろい続ける世界」を正しく認識することができなくなった時代。

問5 空欄 B に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 。

- ① 命 ② 希望 ③ 時間 ④ 現在

問6

次に示すのは、本文を読んだ後に、二人の生徒が話している場面である。会話中の空欄に入る内容として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号

は 23。

生徒A——筆者は数学者らしいんだけど、「はか」という言葉をもとに世界をどうとらえるかという話に論を展開しておもしろかったな。

生徒B——そうだね。『大言海』によると、数区に分かれた田を数える「はか」という言葉から、「はかばかし」「はかどる」などの言葉ができたんだね。筆者は「はかる」ことについてどのように述べていたかな。

生徒A——と考えているね。

- ① 無常な世界では、「はかる」ことにより物事の基準ができることがひとつの安心材料となるけれど、「はかのない世界」をその基準で「はかろう」とするのではなく、「はかない」瞬間に全力で向き合うことも大切だ
- ② 現実には自分の思い通りになるものではなく、移ろいゆく世界に人は不安を覚えるものだから、物事を「はかる」ことで管理して、「はかのない世界」を「はかがゆく世界」へと変えていくことが大切だ
- ③ 効率を考えたりすることのない子どもの世界では、「はか」という基準に基づいて「はかどったかどうか」を考えたりすることはないけれど、そうした「はかのない世界」にこそ、社会を効率化するヒントはあるのだ
- ④ 数学の世界では、「はかる」という概念に基づき、「計算」という営みに秘められた可能性を掘り起こしてきたけれど、言葉の世界では、「はかる」ことに意識を向けすぎると見えなくなるものがあることを危惧すべきだ

問7 この文章の表現・内容などに関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうち

から一つ選べ。解答番号は 24。

① 「はかばかし」「はかどる」「はか」「はかる」「はかない」などの似た表現が続くことによる読むうえでの紛らわしさや読みづらさを解消するために、行空きを挟むことによつて筆者の視点の転換を示したり、引用文であることを明示したりして、読みやすくしている。

② 寒いうえに雨も降り始めたというのにクリスマスにサンタにもらったおもちゃで無心に遊ぶ息子の話をまず示し、間を置きながら、一年前には息子は入院していたこと、本文執筆中の今は筆者の背後で眠っていることを重ねて綴つづることで、息子への愛おしさが胸に溢あふれていることを効果的に表している。

③ 「物の見えたるひかり、いまだ心にきえざる中にいひとむべし」という芭蕉の言葉を引用し、後で芭蕉は「たちまちに消えゆく」その光を『きえざる中にいひとむ』ことをしていたと示すことで、「はかない」一瞬のかがやきをとらえるために言葉を育むことが重要だという筆者の主張につながっている。

④ 唐木順三に関して記述し、「無常」という語句の意味の変遷について提示することで、読者の理解を促し、私たちの生きている世界は「はかない」ものだということを強調するとともに、そう意識することが大切だという主張に説得力を持たせている。

三 次の問い（問1～11）に答えよ。解答番号は ～ 。

問1 次のア～ウの文の説明にあてはまる語句として最も適当なものを、後の①～④のうち

から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

ア 物事が食い違つてうまく行かないこと。

① 愛護 ② 援護 ③ 開悟 ④ 齟齬 そご

イ 自分の意志ではなく、他者から命令・強制されて行動すること。

① 支配 ② 拘束 ③ 迫害 ④ 他律

ウ 物事を進めるうえで妨げとなる事柄。

① 隘路 あいろ ② 軋轢 あつれき ③ 因縁 ④ 因習

問2 次のア～ウの意味を表す語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それ

ぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

ア 激情・情熱・情念。

① コスモス ② トポス ③ エートス ④ パトス

イ ピラミッド型の階層性や階級制。

① マイノリティー ② ヒエラルキー ③ ブルジョワジー ④ アパシー

ウ 精霊崇拜・靈魂信仰。

① アニミズム ② フェティシズム ③ ダイナミズム ④ シニシズム

問3 「係の者に聞いてくれ。」という文を敬語表現に改めた場合、敬語の使い方が正しいも

のを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

① 「係の者にお聞きしてください。」

② 「係の者にお聞きください。」

③ 「係の者に伺ってください。」

④ 「係の者にお伺いしてください。」

問4 次の各文のうち、敬語の使い方が正しいものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「祝電が参っておりますので、ご披露させていただきます。」
- ② 「お飲み物はどちらにいたしますか。」
- ③ 「山田さまでございませぬ。」
- ④ 「おわかりになりにくかったですでしょうか。」

問5 次の各文の傍線部のうち、他と品詞が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① どれにしようか迷ってしまう。
- ② どこの誰なのか、全くわからない。
- ③ どちらにせよ、よく考えることが大切だ。
- ④ これを描いた人はどんな人だろう。

問6 次の各文の傍線部（名詞）のうち、他と種類が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 覚えるために最低十回は書く。
- ② 知識はいくら身につけても邪魔にならない。
- ③ 友人と将来の夢を語り合う。
- ④ 父は趣味の釣りに出かけた。

問7 次の各文の傍線部（助詞）のうち、他と種類が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 食べたいものを我慢するのはつらい。
- ② あの時は、ああするより他に仕方がなかった。
- ③ 今日は何もかも絶好調だ。
- ④ 部活で汗を流した成果が出る。

問8 次の語句と本来の意味との組み合わせが正しいものを、①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 36。

- ① 姑息こそく — 卑怯ひきょうなさま
- ② 下世話 — 世間でよくある噂話うわさばなし
- ③ 浮き足立つ — 浮かれて落ち着きがなくなる
- ④ 天地無用 — 上下逆さまにしてもよい

問9 次の四字熟語のうち、「徳のある人は自分の過ちを悟ればすぐに改める」という意味を

表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 37。

- ① 君子豹変くんしひょうへん
- ② 竜頭蛇尾
- ③ 軽挙妄動
- ④ 変幻自在

問10 次の四字熟語のうち、「結果の善し悪しあにかかわらず、行動や運命をとにもにすること」と

いう意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

38。

- ① 一致団結
- ② 一族郎党
- ③ 一家団欒だんらん
- ④ 一蓮托生いちれんたくしょう

問11 次のうち、故事成語「圧巻」の意味として最も適当なものを、①～④のうちから一つ

選べ。解答番号は 39。

- ① 書物や映画などの中で、最も優れている部分
- ② 他と比べ物にならないほど売れていること
- ③ 誰よりも迫力があって他を押さえつけること
- ④ 際立って力強く多くの人を支配している男

一般選抜 I 期 国語 正答

大問	番号	正答
一	1	②
	2	③
	3	③
	4	①
	5	④
	6	②
	7	④
	8	③
	9	②
	10	②
	11	③
	12	①
二	13	②
	14	①
	15	④
	16	②
	17	③
	18	③
	19	③

	20	①
	21	①
	22	④
	23	①
	24	③
三	25	④
	26	④
	27	①
	28	④
	29	②
	30	①
	31	②
	32	④
	33	④
	34	①
	35	③
	36	②
	37	①
	38	④
	39	①